



からし・ネット公開中!!
<http://www.karashi.net>

世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なき者の友」の輪
ニュースレターVol. 42 (2021年12月発行)

私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください

私たちは、神が造ってくださった「自然の恵み」である植物や、それを食べることによって生かされている動物のいのちをいただくことによって生かされています。すべての者が、毎日糧を得て生かされる本来の姿を狂わせてしまっているのが、私たち人間の「自分中心から出てくる食欲や他者への無関心」が生み出す活動です。「思索は世界的に、行動は足下から」という言葉にあるように、世界のシステムが正されるように願うことと同時に、今年もクリスマスを覚えて、自分の足下の行動を見つめ直して、全世界の「私たち」が日ごとに糧を得られるように行動したいものです。

代表カタリスト 神田英輔

地球環境とつながる「食」を本来の姿に取り戻すために

今年8月、「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」が8年ぶりに出した報告書に、「ホモサピエンス」と呼ばれる私たち人類にとって決定的な発表がありました。「地球温暖化の原因は人間の活動のため」と断定したのです。それまでの他にも原因はあるかも、という姿勢を転換したのです。そして、温暖化による熱波や豪雨という気候の「極端な現象」はますます増えると解説しました。それは、気候とは切っても切り離せない食料の安定した生産が今後、大変難しくなることを意味しました。そのなかで、今年のノーベル物理学賞に日本人の真鍋淑郎さんたちが選ばれました。1960年代後半、「地球規模の気候モデル」を開発したことが評価されたのです。真鍋さんは太陽から降り注ぐ熱が大気、陸地、海洋、また宇宙の間でどのように循環や放射をするのかというモデルを数式化し、当時の最新コンピューターを使って計算しました。真鍋さんがこう考えたのは「大きな目で見て、直感的に」という地球丸ごとの視点を持ったからだそうです。こうして、二酸化炭素を始め、メタンなどの温暖化ガスが地球を覆う見えない天井をぶ厚くすることが判ったのです。二百年ほど前に始まった産業革命前の地球では、人間や動物の二酸化炭素は地上の森林、植物や海洋に吸収されてバランスが取れていましたが、産業革命以降、人間活動による二酸化炭素などの排出が急速に増大したのです。

人類は飢えを乗り越えられるように、植物でも動物でも食べることができる消化機能を持っています。私たちの食料である植物と動物は気候という「地球の大循環」に大きな影響を受けると同時に、地域ごとに特色がある「生態系」というシステムに根差しています。植物は光合成でエネルギーを得て成長し、それを動物や人が食べるのです。そして、小動物を大動物が捕食し、家畜を人間が食べます。植物や動物界では、生き物が死ぬと微生物に分解されて土に戻ります。すべての生けるものが



生産、消費、分解に関わり、循環するのが「生態系」です。私たち人間は「生態系」の一部であり、恩恵を受ける存在として長い間、気候の影響を受ける大地を耕作し、家畜を育て、汗水たらして食料を得てきました。

ところが、現代の先進国と言われる国々に生きる私たちは、気候や「生態系」という循環による恵みだった「食」を思いながら味わってはいないことを思わされます。日に3度の食事は体のエネルギーと栄養を機能的に摂取する作業に過ぎない。農作物や家畜を現代ではどのように育てるのか、作物の収穫法あるいは家畜の屠り方を想像もしなかったと気づかされます。どれほど大量の食材がはるばる大消費地に運ばれるのか、また、見た目よく包装され、売り切れないように店に並べ続けて売れ残れば廃棄するのは「簡単に楽に食べる文化」に浸りきった消費者の私たちを満足させるためだったと想像したことがあるでしょうか。「食」が私たちの手元に届く生産、輸送、販売・消費・廃棄物とされる段階で、日本の二酸化炭素排出の三分の一が産出されているそうです。また、FAOは2013年、世界の畜産業だけで地球上の温暖化ガスの14%が排出されていると報告しました。反芻する牛のゲップには大量のメタンが含まれるそうです。気がつけば「食」が手に届く仕組みについて、私たちはあまり考えなくなっていました。考えなくてもよい仕組みになっていたからでしょう。



地球上のすべての人の生存に欠かせない「食」を深く考えなくなった人類は、滅びの始まりに立っているのかもしれない。一方、地球にこれほどの影響を及ぼすようになった人類は、真鍋さんのように「地球まるごと」の視点で考えられる頭脳を備えられています。今こそ、この頭脳や共感力を用いて「食」の生産、流通、消費・廃棄の一連の流れの中で、二酸化炭素やメタンを少なくするいろいろな方法を調べてみるのはどうでしょうか。そして、自分ができる一歩を踏み出してみる。地球レベルのことです

から小さな一歩ですけれど、一つのやり方に満足することなく、考え続け、関わり続けること。それが地球上のすべての人に「食」が行き渡る、本来の姿を取り戻すことにつながるものと思えてなりません。

聖書から「現代の食」を問いかけるカナダの方が、「食」は他者とのコミュニケーションの場であり、すべての人にとっての祝宴の場として描かれていると語っていました。地球環境を大切にすることは、すべての人に満ち足りる「食」という祝福をもたらすことになるのです。現代に託された地球の緊急事態への対処に、地球環境と人類のかけがえのない一片である私たち一人一人が呼ばれていることを心に留めて、気づかされたことを実践し続ける者になりたいと思わされます。

(カタリスト 柳沢美登里)

その他の活動 (2021年9月~11月)

日本福音主義神学会・全国研究会、帝京科学大学、練馬グレースチャペル、福音自由教会関東・東西南地区合同青年会キャンプ、東京武蔵野福音自由教会・礼拝、福音自由・南地区牧師会、(以上東京都)、世界食料デー岡山大会(岡山県)、大和YMCA(神奈川県)、聖望キリスト教会(千葉県)、南浦和バプテスト教会(埼玉県)、万座温泉ホテル日進館・カルチャー講演会(群馬県)、新潟グレースネット(新潟)、FVI総会などにおいて、カタリストがカタリスト(触媒)としてZoom・対面によるセミナー、講演会などの奉仕させていただきました。皆さまと共に隣人を愛する化学反応が起こることを祈っています。

働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替： 口座名：「F V I」 口座番号：00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京UFJ銀行の口座もご利用いただけますので、お問い合わせください。

* このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは、事務局にお知らせください。

* 国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

●「声なき者の友」の輪：事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776 (神田)